

---

( ^ ^ )

蕪

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

( ^ ^ )

【コード】

N5259Q

【作者名】

蕪

【あらすじ】

完璧自分の練習用です。

無視してください。

(前書き)

練習です。

訳わからんことになってます。

ぼくは母親が嫌いだ。

思春期特有のものであつて欲しかった。

ただどつどつやらぼくは本当に彼女を人間として好きになれないらしいのだ。

顔、声、仕草、表情、話し方、考え方、眼球の動かし方、口の開き方、他人の詰り方<sup>なじ</sup>。

全部全部嫌いだつた。悲しいけれど。

衝撃だつた。

あれが母親ということが。

誰でも一人くらいはいる、どうしても好きになれない人間というのが自分の肉親であることが。

嫌悪したけど、しょうがない、とも思った。

感謝はしなければならぬのだ。

女手ひとつでぼくをこの歳まで育ててくれた。

ぼくはそのことを望まなかつたけれど、きつとそれは偉業だし、ぼくには同じことなんて到底出来ないだろう。

「\* \* ちゃん」と、ぼくを呼ぶ。

虫唾が走る。

そんな自分を異常に感じながら、嫌悪を抑えてぼくは返事をする。

「聞こえない」という。

「愛嬌がない」という。

眼球をぐるぐる動かし、ため息をつく。

テレビのニュースを見ては、他人を詰る。

知つたかぶる。

どうしようもなく嫌いだった。  
体が触れれば鳥肌が立った。  
同じ空間にいたくなかった。  
わが子にそんな風に思われる彼女が可哀相で可哀想で可愛そうで、  
こっそり泣いた。

今日は門出の日です。

開放されるのです。

あなたはぼくから、ぼくはあなたから。

これほど清清しい気持ちにはこの先きつと出会えません。

あなたには感謝しています。

だけどそれ以上に憎んでいます。

だからこの方法をとりました。

あなたは驚くでしょう。悲しむでしょう。

この行動がぼくのあなたに対する気持ちの表れです。

ざまあみろ。

一生苦しんで下さい。

井伏和子様

\*  
\*

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5259q/>

---

( ^ ^ )

2011年10月6日23時54分発行